

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム紫原
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原4丁目34番31号 (電話) 099-250-2643
自己評価作成日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・高台にあり春になると道路沿いの桜や近くの公園の桜がとてもきれいで毎年花見見物へ入居者様をお連れしております。
- ・近所に公園や学校・医療機関があり大きな道路から少し入ったところにある為、とても静かで恵まれた環境に作られたホームです。
- ・学校の職場体験を受け入れたり地域の文化祭・夏祭り・運動会の見学を行うなど地域の方々との交流を行っております。(現在はコロナ禍の為中止しております)
- ・入居者様には出来るだけ入居前と変わらぬ生活を送って頂きたい為、ご自宅で使用していた家具などをお持ち頂く事をお勧めしております。
- ・入居者様が日々楽しく有意義に暮らせるように努めております。
- ・施設内は広々とした空間があり開放感があります。
- ・職員は介護福祉士の有資格者が多く月に1回の内部研修や外部研修にも力を入れ常に自己研鑽に努めております。
- ・災害時の避難場所も近くにあり避難訓練を定期的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市紫原地区の幹線道路から少し中に入った閑静な住宅街に建てられ、高台にあるため春には桜並木がとてもきれいな地域である。近くには中央公園・保育園・小中学校・テレビ局・コンビニエンスストア・多くの商店等が立ち並び、歩いて出かけられる利便性の良い環境にある。設立法人は、鹿児島市内一円に19か所のグループホームを持ち、各代表者による管理者会議が定期的開催され、コロナウイルス感染予防に関する指示や協力医療機関による健康管理等が行われている。

職員は利用者の尊厳や人格・思いを大切にしながら、丁寧な言葉かけに配慮して多くの会話を楽しみ、地域の中での利用者の声や願いを聞きながら本人の望む暮らしの実現を目指し、理念に沿った支援に取り組んでいる。管理者は職員とのコミュニケーションを十分に図り、日頃から何でも話せる関係を構築しており、業務に関する振り返りの場を設けている。有休休暇や希望休の取得、スキルアップを図る研修への参加や資格取得に対する支援等、勤務シフトの作成には職員の要望や個人的な事情も配慮して、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。

利用者の高齢化や重度化に伴い、普段の生活環境の中で最期まで過ごしてほしいという家族や職員の願いに対して、ホームでの看取りを希望されることが増えている。看取り期には関係者間で協議を重ね、本人・家族の思いを汲み取りながら支援に努めている。終了後には振り返りや意見交換を行い、職員のスキルアップや不安の軽減に努めており、4月からは訪問看護との連携体制により、これまで以上に充実した医療連携体制が確立されていく予定である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	共通認識を深める為、事務所やホール等、目に付きやすい場所へ掲示している。	利用者の人格や感性を尊重し、利用者本位の支援を目指した理念を玄関・ホール・事務室に掲示し、毎月ミーティング時にユニット毎に唱和している。管理者は日頃から利用者に対する言葉かけが重要であることを認識できるように働きかけ、理念に沿ったケアとなるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過以前は、地域の文化祭や夏祭りの見学への参加、認知症カフェ等、地域の方と触れ合う機会があったが、現在はなかなか出来ていない。	自治会に加入し、日頃は回覧板で地域の情報等を把握しており、近所に住んでいる民生委員とは密に交流が図られている。1~2か月毎の訪問美容は殆どの利用者が利用し、地域住民の中には入居を考えて相談に訪れる人もあり、地域との良好な関係が構築されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	玄関通路へ資料やパンフレットを掲示し、気軽に手に取りやすく工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過以前は、第三者へも参加して頂き、入居者様の現状やサービスの実態を報告し意見を頂いていた。現在は、報告書を送付し、意見を頂ける時は頂ける様に工夫している。	事前に家族・民生委員・長寿安心相談センター・市担当者等に書面で意見や要望等を頂き、会議を職員のみで開催し、議事録を委員に送付している。頂いた意見等はミーティングや申し送りで検討し、運営やサービスの向上に活かされている。今後は委員が出席して会議が開催されることを待ち望んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿安心支援センターへは、紫原行事予定表を送付し事業所の近況報告を行っている。また、行政連絡事項については、電話・電算システム・または直接足を運び迅速に対応している。	市職員との連携は、主に長寿安心相談センター担当者と電話・メール・窓口で運営や各種制度手続きの相談等を行い、助言・指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。一部の利用者は成年後見制度で司法書士の定期的な訪問を受けている。市やグループホーム協議会主催の研修はオンラインで受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を選出し、定期的に研修を行い入居者様の尊厳を損なわないケアを心掛け防止に努めている。	「身体拘束適正化のための指針」を作成して2か月毎に適正化委員会を開催し、研修会は毎月開催して意識付けを図りながら日々のケアに臨んでいる。会議に出席できなかった職員には資料を配布し、議事録は職員間で閲覧・押印したり家族にも資料と共に郵送して認識を共有している。人感センサーを利用する場合には家族の了解を得て介護計画にも記載し、言葉遣いは馴れ馴れしくならないよう、丁寧な言葉で話すように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を定期的に行い、研鑽しており、虐待について見過ごすことなく、防止出来る様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護について、内部の研修を行い、又、講師の方をお招きし、学習を行っている。必要時はその都度、関係者と話し合い、活用出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、ご家族様へ契約書・重要事項説明書に沿って、十分な説明を行い、疑問や質問にもお答えしている。ご理解を得られたか、その都度確認し、契約や解約の署名・捺印を貰っている。報酬改正等あった場合は、文章でお知らせし了承を貰っている。また、入居前にはご本人様にご家族様に見学して頂き、納得して頂いてから契約に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しているが、あまり活用されていない。施設の相談担当者・解決担当者・外部に定めた第三者委員の連絡先を重要事項説明書に明記して説明並びに玄関に掲示している。	利用者の思いは日頃から会話・表情・仕草等を通して把握するように努め、利用者の要望等は十分に伝えられ、職員も丁寧に対応している。家族からは面会・電話・ライン・園便り・小口現金持参時等に意見・要望等を頂くようにしており、職員・家族間で話し合いながらサービスの見直しや業務改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中や、月一度のミーティング時に意見や提案を聞いており、その都度、解決へ向けて取り組んでいる。	管理者は職員とのコミュニケーションを十分に取って、日頃から相談を快く受けるなど、何でも話せる関係を構築しており、年度内の反省と次年度の抱負を明文化して振り返りの場を設けている。有休休暇・希望休の取得、スキルアップを図る研修への参加等、勤務シフトの作成には職員の意向を反映させ、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による手当の支給や、実績による評価をして頂く等、向上心を持って働くことが出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立てて、職員が持ち回りで、様々な研修内容の資料を準備し勉強会を行っている。通常であれば、外部研修も案内を回覧したり参加出来るように進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の研修に参加したり、その他の研修等に参加する事を推進し、情報交換・交流の場を広く持てる様努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や入居前の訪問調査に伺った時に、ご本人の不安や要望等を傾聴し、安心信頼して頂ける様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事、要望等を伺い、納得がいく様説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、生活面・経済面・健康面等の状況を把握し、本人に適したサービスが利用出来る様、他の施設や事業所と連携を図り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんで頂いたり、本人様の得意な事を活かしながら、毎日の生活の中で共に寄り添える関係を大事にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は新型コロナウイルス感染症流行により面会もままならない状況の為、機会ある毎に近況報告し電話にて会話して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	届け物を居室に飾ったりし居心地よく過ごせる様対応し年賀状を馴染みの人に出す援助を行い繋がりが途切れない様支援している。	利用者や家族からの聞き取り、関係機関等からの情報を基に、馴染みの人や場について把握し、情報を共有している。家族や友人との面会は玄関のガラス越しで行っており、利用者の体調不良時には居室で対応できるように配慮している。電話・手紙・代筆・訪問美容・キリスト教信者の教会への外出等、本人を支えてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や趣味等共通性を把握しトラブルにならない様共同生活がスムーズにいく様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも相談に応じて必要時支援に対応する様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に本人様のお話を聞いたり様子を観察してニーズを把握するように努めている。困難な場合は表情や動作から読み取ったりご家族から聞いたりして把握に努めている。	思いや意向は日頃の会話・表情・仕草等から把握に努め、できるだけ本人の言葉で聞き取るようにし、うまく伝えられない人の場合には、家族からの情報・アセスメント・生活歴等から推測し、本人の思いに寄り添うように努めている。これまでできていたことが継続できるような支援に心がけ、利用者の気持ちを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人よりこれまでの生活内容を聞き本人のペースで生活出来る様支援している。又、今まで使い慣れた家具、布団、趣味のお花等持って来られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し関わり合いの中から出来る事の現状を理解し維持向上出来る様努めている。個別の記録、バイタルチェックを行い体調の悪い時は医師へ報告している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族の意向、職員や関係者から意見を聞きカンファレンス時に意見交換を行い介護計画に反映されるように努めている。	本人及び家族の思いや意向を把握し、主治医・看護師・訪問リハビリ・薬剤師等の意見を反映させ、毎月のケアカンファレンスでは利用者毎にケアの方向性について協議して、利用者主体の介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎に担当職員が中心となって実施し、6か月毎に見直して計画を更新しているが、入居後間もない期間は短期間で見直して更新している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、記録して残し、特記事項等は毎日、朝・夕の申し送り時や、ノートに記載し、情報を共有し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者様のニーズや、家族の状況等に合わせて、柔軟な支援が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催や、地域の行事、消防署の避難訓練や救急救命講習実施にて、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望に合わせたかかりつけ医と連携を図り、適切な医療が受けられる様に支援している。状態・病状に合わせてご家族に報告・相談し専門医に相談している。	本人及び家族が希望する医療機関をかかりつけ医としており、協力医療機関以外は全て往診での対応となっている。月2回の訪問診療・訪問歯科診療・1～2か月毎の通院等が行われ、皮膚科・眼科等の専門診療科には職員や家族が付き添い、協力体制の下に必要な受診が行われている。4月からは訪問看護との連携体制により、これまで以上に充実した医療連携体制が確立されていく予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付く少しの状態変化は、かかりつけ医・機関の看護師に伝えて、適切な受診が受けられる様に連携を図っている。訪問看護師を利用されている方は、訪問看護師にその都度状態をお伝えし連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、サマリーを提供したり、立ち会って情報提供を行っている。入院中は定期的に面会を行いご家族や看護師、相談員と情報交換を行っている。また母体の病院と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の状況によって、ご家族・主治医・職員間で話し合いを行い、ご家族が納得のいくように説明をしっかりと行いながら支援している。	「重度化や終末期における介護指針」を整備し、利用契約時に意思確認書と共に本人・家族に説明して同意を得ている。ホームでの看取りも行っており、主治医・家族・関係者間で連携を図り、協議を重ねながら本人・家族の思いに沿ったケアに取り組んでいる。看取り期には家族が居室に泊まり、訪問看護も利用して対応し、終了後には振り返りや意見交換を行い、職員のスキルアップや不安の軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度の救急蘇生法の講習や事故発生時の対応については、毎月、研修等で勉強会を行い、スムーズに行えるようにマニュアルを作成し、緊急時に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回、消防署に依頼し、夜間と昼間の火災避難訓練と地震の避難訓練を行っている。水や防災グッズ、担架を分かり易い場所に設置しており、火災通報装置・スプリンクラーも設置している。</p>	<p>火災・風水害・地震・津波・火山爆発に関するマニュアルを整備し、日中及び夜間想定火災避難訓練を年2回、消防署立ち会いで実施している。また、年1回は救命救急講習を受講し、風水害や地震に対する自主訓練を実施して、消火器や自動通報装置の取り扱いについての研修も実施している。コロナ禍のため地域住民の参加は得られないが、訓練実施日時のお知らせを配布している。約3日分の米・レトルト食品・水の備蓄があり、カセットコンロ・ラジオ・懐中電灯・ヘルメット等を準備して防災対策に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の入居者様を敬い、各々に応じた言葉かけを行うようにし、訪室時はノックをして、ご本人に確認をする等、プライバシーを損なわない対応をしている。	人間の価値は高いものであり、最大限に尊重されるべきであるという理念の下に、利用者の性格や心身の状態に合わせた支援に努めている。権利擁護・個人情報保護・認知症についての研修を実施し、排泄に関しては誘導の際の声かけ、介助時にはドアを閉めるなど、羞恥心やプライドには十分配慮して、適切な支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築き、ご本人の思いや希望を表して頂ける様に努力している。また、表現出来ない入居者様については、表情やしぐさ等から思いを汲んだり、察したりするよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に合わせて衣類を選べるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きやお盆拭き等、各入居者様の能力に合わせて、職員と一緒にやっている。	食事は毎食ユニット毎に作り、利用者の心身の状態・嗜好・季節感等に配慮し、利用者に合わせて形態で提供している。利用者は食材の下ごしらえ・台拭き・お盆拭き・下膳・調理等、できることを一緒に手伝い、行事食・手作りおやつ・手作りヨーグルト・外注弁当等で工夫して楽しみながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録して、把握するように努めている。摂取量が少ない方には、言葉かけ行ったり、ご本人の好きな飲物を用意したりして、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを必ず行っている。ご自分でされる方も見守りや仕上げ磨きを職員が行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、職員間で共有し、トイレの声かけや誘導を行っている。立位保持が困難な入居者様については、職員が二人で介助する等して、可能な限りトイレでの排泄が出来る様に支援を行っている。	利用者の個々の身体状況や意向の把握に努め、排泄チェック表も活用しながら、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。布下着・リハビリパンツ・オムツ等、利用者の状況に応じたケアの方法や介護用品を計画に反映させ、排泄機能の維持・改善に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・15時のどちらかのお茶の際に手作りヨーグルトを提供している。歩行出来る方は、出来るだけ歩行する機会を作るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴については一人一人決まってはいるが、体調に応じて変更行っている。また、湯船へつかれる方は安全に入浴できる様支援行っている。	利用者の心身の状態に配慮しながら週2回、午前中に入浴を支援している。入浴の時間・温度・同性介助等、利用者の意向に沿って柔軟に対応し、シャンプー等は好みのものを使用できる。排泄等の失敗時にはシャワー浴で清潔の保持に努め、入浴後は水分補給や保湿剤塗布等の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調・生活習慣を考慮し入床時間の調整や空調、明るさ等の調整をし出来るだけ安眠して頂ける様工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2名による二重チェック行っており表へ記入している。薬の管理指導については担当薬局の薬剤師より指導して頂いている。また、薬剤師と情報共有し薬剤変更時等の必要に応じて相談行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルをされたりテレビの視聴等、個々の楽しみをされたり入居者同士や職員と会話を通じ馴染みの場所に感じられる様支援する。月1回の誕生会や行事を行い楽しんで頂けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の条件にて居室内での面会を行っている。また、コロナが落ちいた際にはホーム玄関のベンチにて面会して頂いていた。コロナ禍になってからはガラスドア越しに面会をして頂ける様支援している。	コロナ禍でこれまでのような外出は難しくなっているが、ホーム周辺の散歩・自宅へのドライブ・病院受診等は実施できており、今春は桜の花見に行けたらよいと考えている。ホーム内では1階駐車場や2階ベランダでの外気浴・毎月の誕生茶話会・書き初め・豆まき・絵本の音遊び・カラオケ・ボール投げ・はり絵等を楽しみ、リフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様より買い物希望が有る時はご家族様へ相談し購入して頂くか職員の方で購入する様支援する。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>緊急時を除き深夜帯以外はいつでも電話の取り次ぎ対応し必要に応じて御家族へ電話支援行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>正月には書初め、ひな祭りではひな人形、クリスマスにはクリスマスツリーといった季節の飾りを入居者様と一緒に作り居心地のよい空間作りに努め日常では室内の明るさ 室温、湿度を注意し調整を行って支援している。</p>	<p>1階と2階の造りはほぼ同様で、ホールは明るく、2階の窓からは桜島を眺めることができる。壁にははり絵・書き初めをはじめ利用者の作品・季節の飾り等が飾られ、テーブル・ソファ・テレビ等が配置され、居心地よく寛げる空間となっている。対面式のキッチンからは調理の音や匂いが伝わり、空気清浄機の設置や窓の換気等により空調・衛生管理がなされ、清潔感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者様個人個人の状態(心身・歩行や日常等)を考慮し、席順や机の位置を調整している。また、その都度の状況にて職員近くにて過ごして頂き話をしたりテレビ視聴したりと思い思いに過ごして頂ける様支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にはご本人が便に慣れたもの(タンスや寝具等)を持ってきて頂き今まで過ごされていた生活を継続して頂ける様支援し季節ごとの衣替え持ち込みをお願いしている。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓仕様で明るく、ベッド・エアコン・タンス・洗面台が備えられている。利用者は使い慣れた寝具・コップ・衣装ケース・ハンガーラック・ぬいぐるみ等を自由に持ち込み、希望に沿った配置で家庭同様に居心地よく過ごせるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ、浴室へは手すりを設置し使用して自立歩行やつかまり立ちの支援を行っている。また、浴室・トイレ・浴室の入口等は分かりやすい様名札等使用し工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない